# 監視円卓会議委員からの質問に対する回答

| 質　問 | | 回　答 |
|---|---|---|
| １） | ＰＣＢ廃棄物の搬入段階から反応槽への流れで、問題はなかったか。 | ＰＣＢ廃棄物の受け入れに関しては、ＰＣＢを含む油を入れたドラム缶の中に変形がひどい、或いは部分的に腐食したものがあり、それらの処置に手間取りましたが、保管事業者の方で吊りワイヤーを付けた状態で一回り大きなドラム缶に入れてから、漏れ防止型金属容器に収納していただいたことにより、支障なく受入作業ができるようになりました。ＰＣＢ廃棄物からの抜油、移送、貯留等には特に問題はありませんでした。 |
| ２） | 反応槽での反応については具体的にどれくらいの量のＳＤをいれたところへ、どのような量のＰＣＢ廃棄物をどのような量ずつ入れて反応させたか、時間経過の中でどれ位反応生成物が出来たか。最終的な反応収率。反応は予想した形で進んだか（ＰＣＢの投入を停止するとか、加熱を停止すると言うことなどなかったか）。これらを具体的な例で示して下さい。 | 引渡性能試験時の反応１サイクル（２バッチ）当りの運転については下記の通りでした。<br>１バッチ目：<br>ＳＤ量：８１１ｋｇ<br>ＰＣＢ量：２０７ｋｇ<br>ＰＣＢ液投入速度：１４～５６ｋｇ／ｈｒ（約２時間半掛けて段階的に流量を上昇させます。）<br><br>２バッチ目：<br>ＳＤ量：６９８ｋｇ<br>ＰＣＢ量：２０７ｋｇ<br>ＰＣＢ液投入速度：２８～６９ｋｇ／ｈｒ（約２時間掛けて段階的に流量を上昇させます。）<br><br>反応生成物（１バッチ目＋２バッチ目合計）は、ビフェニル２０４ｋｇ、塩化ナトリウム３６３ｋｇです。<br>分解済油にてＰＣＢ濃度を測定し、工程管理値 0.1mg 以下（ 0.0011mg/kg） であることを確認。<br>計画通り反応工程は進みました。反応収率は、ほぼ１００%です。（未反応ＰＣＢは 0.0000007%）<br><br>ＰＣＢの投入を停止、加熱を停止、等の作業は実施しておりません。 |

| | | |
|---|---|---|
| ３） | 反応生成物ビフェニールにはどれくらいのＰＣＢが含まれているか。今のところ、どれくらいの量があるのか。どのように保存しているか。これを今後どうしようとしているか。 | 処理済油中のＰＣＢ量は、卒業判定基準:0.5mg/kg　以下の　0.042～0.052mg/kg　でした。<br>試運転中に発生した処理済油約４０ｔは、施設内分析及び外部機関による分析でＰＣＢ濃度が卒業判定基準以下であることを確認後、払い出しました。保管は、専用のＳＵＳ製貯槽により行っています。操業後も引き続き同様に対応します。 |
| ４） | 廃アルカリの中にはどんなものが、どれくらいの濃度で存在しているか。これまでにどれくらいの量が出来ているか。これを今後どうするつもり。 | 廃アルカリ中のＰＣＢ量は 、卒業判定基準:0.03mg/Ｌ 以下で、0.003mg/L の定量限界未満 でした。<br>試運転中に発生した廃アルカリ約１１０ｔは、施設内分析及び外部機関による分析でＰＣＢ濃度が卒業判定基準以下であることを確認後、特別管理産業廃棄物として払い出しました。操業後も引き続き同様に対応します。 |